

一般社団法人

# 香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部  
 事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁62-1  
 四国医療専門学校 作業療法学会内  
 (一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:[kagawa-ot@star.ocn.ne.jp](mailto:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp)

## 地域にでて学ぶ



かが整形外科クリニック 樋本 英司

近年、香川県作業療法士会では公益的な事業（研修会）の機会を得ることが多くなりました。その一部をご紹介します。香川県作業療法士会が香川県健康福祉部長寿社会対策課より「介護職員人材育成」のため、研修会の委託を受け年6回の福祉用具研修会を開催しています。同じく長寿社会対策課より県民に向けた「認知症予防事業」への運営委託を受けています。こちらの事業は理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の3団体で組織し、地域包括ケアシステム推進委員会として、地域住民へ認知症予防運

動の普及活動をおこなっています。また高松市からの依頼では「瓦町健康ステーション」という市民への健康教室にも参加し、作業療法士として私自身も地域にでていく機会が増えています。

昨今のテーマとして「医療・介護連携」や「地域包括ケアシステムの構築」など行政が地域へシフトするように舵取りをおこなっています。もちろん作業療法士も例外ではなく、その波に乗り専門職として県民の医療・保健・福祉に貢献し、地域住民の健康増進・維持を支援する活動が今まで以上に必要とされています。地域にでての活動が増えたことで健康なシニア層との出会いが多くなり、予防医学について作業療法士がどのように関わればよいのか考える機会をいただくことができました。また多職種間で協議や協力をすることで、いままでにない視点での考え方が身につき自分自身の成長にも繋がっています。「予防医学の重要性」や「多職種連携の重要性」を学ぶことができました。

今後も一層、県民の健康増進・維持を支援するために、会員の皆さまのご協力が必要と感じています。公益的な事業に興味がありましたら、ぜひ一緒に活動してみませんか？また地域活動での講師依頼などさせていただくこともあります、皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

## 香川県作業療法士会 **各 部 紹 介**

### 学 術 部



理事兼学術部部长

**中川 真人**

(介護老人保健施設 白寿の杜)

学術部は、年3回の学術研修会、年数回の特別研修会、毎月1回のOTブロック勉強会（開催場所：西讃、東讃交互）、年1回の県学会、それぞれの企画・運営、それから学術誌の編集・発行を行っています。現在、部員は40名でそれぞれの担当に分かれて活動しています。研修会等へのご参加お待ちしております。よろしくお願ひします。

公共事業部の部長をさせていただいています、西香川病院の山下正浩です。

公共事業部は、地方自治体など公的な機関と協力して活動を行っている部局になります。

公共事業部の具体的な活動としては、一般住民向けの県民公開講座の開催、各地域の健康教室などへの講師の派遣、自治体が主催するイベントへの参加などを行っています。私自身作業療法士が地域住民等への指導・教育・啓発などの活動を行っていく上で必要な活動であると考えています。また、興味のある方はご協力よろしくお願ひいたします。

### 公共事業部



公共事業部部长

**山下 正浩**

(西香川病院)

### 災害対策委員会



災害対策委員会部长

**安西 誠**

(かがわ総合リハビリテーションセンター)

いざ災害が起きた時、作業療法士が県民の方々のお役に立てるように会員の皆さんへの啓発活動を行っています。また香川県JRATを通じて、関係職種の皆さんとの連携をとっております。

## 制度対策部



制度対策部部长  
**川崎 眞一**  
(川口医院)

(一社)日本作業療法士協会の名称変更に伴い、香川県作業療法士会も今年度より保険部から「制度対策部」に名称変更になりました。よろしくお願ひします。

ご存知のように、来年度は診療報酬・介護報酬の同時改定です。県士会員の多くの方々が、医療保険及び介護保険領域での業務に従事されています。日々忙しい業務の中、作業療法の質を高めるべく努力されていると思いますが、それとは別に改定された各々の保険制度に対応した業務を行うことも大変重要です。私たち制度対策部では改定による疑問点や問題点を少しでも改善・解決すべく、**アンケート調査**や**勉強会等**を行っています。また、香川県作業療法士会として県民の皆様にも少しでも寄与できるように、調査活動なども行っています。

このように制度対策部は、どちらかといえば縁の下の力持ち的地道な活動を行っています。毎日の業務で大変だとは思いますが、制度対策部からのアンケート調査活動等にご理解とご協力をお願いします。また、制度上疑問等があり**調査や研修会**など**制度対策部**で**対応してほしい事**があれば、ご連絡いただければ幸いです。

最後になりましたが、現在**部員を募集しております**。興味のある方は、気軽に制度対策部員等に声をかけて頂ければと思います。少数精鋭で頑張っていますので、よろしくお願ひします。

## 教育部



教育部部长  
**福家 亜希子**  
(いわき病院)

(一社)日本作業療法士協会の生涯教育制度に基づいて運営しています。

- ①現職者共通研修会・現職者選択研修会の開催
  - ②生涯教育制度に関する問い合わせに対応
  - ③香川県作業療法士会主催の研修会・学会などで配布されるポイントシールの管理
  - ④SIG研修会に関するポイント付与手続き
- 今年度より、新たに生活行為向上マネジメント (MTDLP) 基礎研修が生涯教育に組み込まれ、また認知症アップデート研修も教育部で開催することとなりました。
- 生涯教育制度に関するお問い合わせは、いわき病院 (087-879-3533) まで。

広報部長の木村です。広報部では毎年、一般の方々に対し作業療法を知っていただくための啓発活動やこれから作業療法士を目指す学生を対象にした説明会を開催しています。また会員に向けての広報活動としては年3回ニュースを発行し、病院紹介、学会報告、勉強会案内、先輩OTの紹介などを記事にしています。今後もより良い広報活動ができるよう部員一同頑張りますのでみなさまよろしくお願ひします。

## 広報部



広報部部长  
**木村 勇介**  
(滝宮総合病院)

## 日本作業療法士協会設立50周年記念事業 県民公開講座を終えて

50周年記念事業委員会 委員長 植野 英一

去る平成29年7月16日（日）サンポートホール高松第1小ホールにて日本作業療法士協会設立50周年記念事業 県民公開講座が行われました。開催日は、3連休の真ん中とあって会場に足を運んでいただける方が少ないのではないかと心配しておりましたが100名を超える131名の方にご参加いただきました。

内容は、2部構成であり、前半が『認知症になっても安心して暮らすためには？』をテーマにフォーラム形式で行われました。中村光夫先生（いわき病院認知症疾患医療センター）は医師の立場から、松木香代子先生（認知症の人と家族の会）は家族の立場から、山下正浩先生（三豊市立西香川病院）は作業療法士の立場からご発言を頂きました。後半は、日本作業療法士協会会長の中村春基先生にお越しいただき、『作業療法の良さ・暮らしへの効果』をテーマにご講演頂きました。中村春基先生のお若い頃？臨床で取り組まれた沢山の映像をご紹介頂きながら作業療法士は対象者の生活行為を高める職種であることを一般の方に分かりやすく説明頂きました。また、作業療法士は、その実践が大切であって、その努力を惜しむことのないよう取り組むべきであるとメッセージを受け取りました。

参加者からアンケートを頂戴し、それぞれの内容に対して「非常に良かった」「良かった」と回答を頂いた方の大半を占めていたことは参加者の満足度の高かったことを意味し、主催者側としてはホッと安心しました。

この度、香川県と高松市から後援をいただき、また、案内文を広報誌に掲載頂いた自治体および準備・当日の運営に携わって頂いた実行・運営委員の皆様にご感謝するとともに次の県民公開講座ではもっと参加人数を増やしていきたいと少し欲を出しております。





# 五味陽子先生 厚生労働大臣賞受賞祝賀会に参加して

赤沢病院 菰田 麻菜美

昨年、9月25日一般社団法人日本作業療法士協会設立50周年記念式典が開催され、五味陽子先生が厚生労働大臣表彰を受賞されたことを受け、平成29年7月16日、オークラホテル高松にて五味陽子先生厚生労働大臣賞受賞祝賀会が開催されました。

日本作業療法士協会会長の中村春基先生をはじめ、県内外からたくさんの著明な方が参加されるなか、出席させて頂きました。

祝賀会では五味陽子先生の学生時代から、現在までの活躍の写真をスライドショーとして紹介したり、多くの方からお祝いの言葉や、五味陽子先生からのお話と、笑い声も多く、終始楽しい雰囲気となりました。

最後は県士会副会長小松博彦先生と五味陽子先生の楽しい掛け合いのあと、1本締めにてお開きとなりました。

先生のお話の中には、善通寺リハビリテーション学院のことや、後輩育成、これからも日々勉強であると、意欲あふれるお言葉など、貴重なお話を聞くことが出来、私自身もですが、そこにいる参加者皆さんが、力をもらうような楽しく充実した時間となりました。

今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



# 先輩の声

No.26 一般財団法人三宅医学研究所  
附属三宅リハビリテーション病院 在宅医療課

佃 貢二  
(13年目)



私はこれまでに、回復期リハビリテーション病棟、一般病棟、外来、デイケアと様々な現場を経験してきました。そして現在は、訪問リハビリテーションのスタッフとして働いています。患者様が実際に生活をしている場にでることで作業療法士としての考えや訓練内容の幅が広がったように思います。

入院中は患者様のご自宅に帰っても困らないように、自宅の環境を確認しそれを想定し



た訓練を行ってきました。しかし、実際に退院された患者様のご自宅に伺うと自分が予想もしていなかった問題に直面することが何度もあり、自分の予想の甘さを思い知らされました。そのような、気づきや経験を今病棟で働いている後輩スタッフに伝えていければと思います。

後輩のみなさんには、今行っている訓練に対し満足することなく、あらゆる事を想定してリハビリに取り組んでもらいたいと思います。そのために、様々な経験をして視野を広げてもらいたいと思います。

## No.27 高松平和病院 管原 雅美

(13年目)



学生時代の同級生から執筆依頼を受けて何を書こうかなあと考えて、計算してみるとOTになって、10年以上の月日が流れている事に驚いています。

作業療法士と言う職業を志し、就職してからは様々な分野を経験させて貰いました。失敗する度に私は向いてないと毎日、思いながら不安に過ごしていました。そんな私が仕事を続けられているのは出会った先輩方や同僚、学生時代の友人や新人時代の同期と話し相談しながら過ごした日が今の私にとって大切な経験になっています。転機になったのが、3年前に長男を出産し、育休取得しました。私が住んでいる地域は待機児童問題が無かった為、長男はスムーズに保育所に入れ、一年後に仕事復帰しました。冬にかけての復帰だった事も、長男は常に鼻水を垂らして、体調を崩していました。その度に小児科や耳鼻科に通っていて、私の仕事復帰に合わせて、小児用の電動鼻水吸引器を楽天で購入したくらいです(笑) 体調を崩したときは病児保育も利用しましたが、長男の体調が気になりながらも、周りに迷惑かけているなあとという罪悪感がありました。職場や家族の協力を得て、復帰後も働く事ができ、長男は元気に育っていきました。その後、待望の第二子妊娠しましたが、妊娠6ヶ月で切迫早産となり、病休に入る事になりました。周囲にフォローしてもらって過ごした妊娠後期でしたが、なんとか予定日近くで出産でき、周りには感謝しかありません。私にそっくりの次男もすくすく育ち6ヶ月を過ぎようとしています。今の子育て中心の日々で思うことは、長男が出来なかったハサミやお箸などを私が声掛け



やフォローしてあげると、できることが増えてくることを間近で見て、子育ては作業療法と似ているなあと感じ、人としても成長させてもらっています。

仕事復帰した後は、人生の先輩方である患者様にリハビリを介入させて貰って行く事により一層の責任感を感じています。家庭と育児の両立をはかりながら、自分と家族に無理のない範囲でOTとして知識を増やしていきたいと思っています。何年経っても今のこの気持ちを大切にしておこうと思っています。

## 治療機器紹介

### 《《 切り身ほぐし練習 》》

準備物 接着パテにて魚の骨を見立てたもの・トイレットペーパー・箸

- ・リアルな魚の骨を形成しその上に水に浸したトイレットペーパーを魚の身に見立てて配置し「魚の身をほぐす」ように箸で操作する練習器具です。
- ・色水に浸したトイレットペーパーの利用し、水の加減で素材の触感や操作難度の段階付けが可能な点や、トイレットペーパーを使う簡便さが利点となっています。



#### 患者さん、担当療法士のコメントより

- ・箸動作練習でスポンジや豆を移動する練習をしていましたが、魚料理がでる機会が多いので、食形態に応じた多彩な箸操作に重点をおくことができました。



## 連載企画5 第一弾

# 「地域ケア会議」

### 第1話

介護老人保健施設 白寿の杜 中川 真人

皆さん、こんにちは。県士会の理事と学術部の部長も兼務させてもらっている中川です。今回より「地域ケア会議」のテーマで3回ほど連載させていただきます。

昨年度、香川県作業療法士会に対して、丸亀市より地域ケア会議への参加依頼がありました。そこで、理事会で検討された結果、私が推薦され、地域ケア会議に出席させてもらいましたので、そのことについてお話していくことにします。

丸亀市の地域ケア会議は、(1)地域ケア個別会議、(2)地域ケアコミュニティ会議、(3)地域ケア推進会議の3種類で構成されています。私は(2)の「地域ケアコミュニティ会議」の構成員として出席しました。この「地域ケアコミュニティ会議」の目的は3つあります。

- ①高齢者が地域でその人らしい生活を継続することを可能とするため、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行い、ケアの質を高める。
- ②個別ケースの支援内容を検討する中で、個別の課題解決を行うとともに、個別ケースの積み上げを行うことにより地域課題を把握する。
- ③個別ケースの積み重ねから把握される地域の課題について整理・検討を行い、市全体の地域課題等については、地域ケア推進会議に持ち上げる。

といったものです。

今回はここまでにして、次回は具体的な内容や進行などについて紹介していきます。

尚、県内ではまだこの地域ケア会議に作業療法士はあまり参画できていませんが、今後呼ばれるようになるために、県士会ではその人材を育成していく準備を進めています。昨年度、学術部の特別研修会として「地域ケア会議に資する作業療法士人材育成研修」を実施しました。今年度も第3回学術研修会で同様の研修を実施する準備を進めていますので、是非、ご参加いただければと思います。よろしくお願いします。



No.14

# 病院紹介

聖マルチン病院

山下 真由美

坂出 聖マルチン病院は、平成29年5月竣工に伴い新病棟がオープンしました。昭和24年に聖ドミニコ宣教修道女会によって開設され、それから60年以上が経過し、現在では、一般病棟136床、療養型病棟40床、緩和ケア病棟20床の計196床の病院として運営しています。

急性期、回復期、慢性期とともに、高齢者や癌終末期の患者様が置き去りにされることなく、行き場を失うことがないような病院でありたいという方針にそって、リハビリテーション科も「がんリハビリテーション」にPT2名、OT2名の配置をしています。また、退院後も継続して外来リハビリを行えるほか、通院が困難な方には、訪問リハビリも行っております。

さらに高齢化社会に伴い、医療だけでなく介護の重要性も高まる中、当院では退院後の生活まで考慮に入れた医療を行うとともに、ディケアにPT1名、OT2名（常勤2名）体制で充実をはかっています。

実際OTでは、病気や事故によってこれまでできていたことができなくなってしまった方、高齢により心身機能の低下・社会的役割の喪失・築き上げてきた生活の変化を余儀なくされた方の「生きる力」を取り戻すため、身体機能のみならず精神的なアプローチもしております。主として、一人一人の患者様にあった「できる活動」から「したい活動」「必要な活動」の介入をしております。「したい活動」への介入は、本人や環境・家人などの背景も考慮し、制約もあることから介入が困難な場合も多くあります。

しかしながら「意味」「価値」をともに再発見していくことにも作業療法としての関わりに「意味」があることと思っております。その関わりが、医療と介護の連携につながり、しいては患者様やご家族様の生活により影響が出るよう日々切磋琢磨しております。

今後も、地域と密接した医療の提供を行えるよう、他部門と密な連携をとり一人一人の患者様の身体機能・能力のみならず、その方の「したい活動・背景」も考慮したリハビリテーションを行っていきます。



New!

## リレーエッセイ③

**森近 友紀子**  
(瀬戸内クリニック)**廣瀬 正敏**  
(済生会病院)**瀬尾 滉貴**  
(香川大学医学部付属病院)

作業療法士になって3年目となりました。先輩方の大きな背中を追いかけて、多彩な疾患ごとのリハビリ、スプリントの作成、臨床研究の勉強、母校の卒後研修会活動などを中心に学ぶことの多い恵まれた環境の中で日々を過ごさせて頂いています。

右にある写真は、学生時代の臨床実習で廃材の切れ端を繋いで作った、思い出のスプリントです。親が大工をしている事もあり、私は幼い頃からものづくりが好きです。現在も日々の臨床の中で機能性と美しさを求めて、楽しくスプリントや自助具等を作成しています。しかし、臨床の中では楽しい事もあれば、反対に辛い事もあると思います。私が最近悩んでいる事は、進行がんや末期がんなどの余命が残り少ない患者さんに対して、作業療法士として何が出来るかです。私の発言・行動が患者さんにどれほどの影響があるかを常に考え、私自身を治療媒体として使用する為に、私自身が健康に過ごし、私自身の作業療法像を模索していきたいと思っています。



開催報告

# 第1回 学術研修会

平成29年7月16日(日)、サンポートホール高松第54会議室にて、鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンターの作業療法士 野間知一先生を講師にお招きし、第1回学術研修会「麻痺や痛みへのアプローチ ～川平法の紹介～」を開催しました。肩の解剖学的な視点から痛みの要因についての解説、川平法の紹介まで、また動画も多くご紹介いただき、とてもわかりやすく有意義な研修会でした。参加者及び運営委員の皆様、お疲れ様でした。



## 入会

- 齋藤 潤一 (クリニック 池田)
- 中川高太郎 (赤沢病院)
- 須内 菜衣 (赤沢病院)
- 豊富なつ子 (国立病院機構 高松医療センター)
- 竹内 寛 (三木ふじた病院)
- 惣田 勇気 (健祥会 バーデン)
- 河野 有紀 (NPデイサービス セト)
- 伊丹 修平 (高松協同病院)
- 長町 君枝 (自宅)
- 三木 逸平 (特別養護老人ホーム うちのみ)



## 退会

- 安西 大貴 (訪問看護ステーション・みぎ)
- 堀川 香菜 (訪問看護ステーション マリル)
- 福寄 美里 (自宅会員) ▶ 広島へ異動
- 臼杵 利彩 (丸亀おのクリニック)

## 異動

- 津川 亮介 (吉田病院) ▶ 香川大学医学部附属病院
- 有馬 毅 (橋本病院) ▶ 自宅
- 藤川 理 (しんしん企画) ▶ 訪問看護ステーション うらら

■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.72 ■

編集長: 木村勇介 編集委員: 伊賀智子・鎌田雄大・高橋優里・水口未紅・安藤瑞基・大谷知佳・田中美由喜・鎌田和奈・村上太気・善相原健史・瀬知杏奈・大島祐輝・細谷かぐや